

- About Us >>>
- Interview >>>
- Ranking >>>
- Links >>>
- Blog >>>
- Contact Us >>>

新着記事 new

- 株式会社ワーク・ライフ・ランス
小室 淑恵
- ブレークスルーパートナーズ株式会社
赤羽雄二
- 株式会社trippiece
石田 言行
- 株式会社ループ・コミュニケーションズ
斉藤 徹
- 株式会社エウレカ
赤坂 優

ピックアップ記事 pick up

- クリエイティブアートディレクター
佐藤可士和
- トレンダーズ株式会社
経沢 香保子
- 参議院議員
松田 公太
- アスリート ソサエティ
為末 大
- ワタミ株式会社
渡邊 美樹

▶ 業界別検索

- IT・Webサービス
- 人材・就職支援
- 金融
- マスコミ・広告
- サービス・外食
- 不動産・建築
- コンサルティング
- 教育・カウンセリング
- 士業
- NPO・NGO

TOP > インタビュー > ブレークスルーパートナーズ株式会社 赤羽雄二

「高いところざしを持って前に進む」



31 | 1 | **BT** | 6 |

いいね!

40人が「いいね!」と言っています。Facebookにアカウント登録して、友達の「いいね!」を見てみましょう。

ブレークスルーパートナーズ株式会社 赤羽雄二 【詳しいプロフィールはこちら】

今回取材させていただいたのは、ブレークスルーパートナーズ株式会社の赤羽雄二氏。コマツにて建設機械の開発6年間勤務し、スタンフォード大留学を経て、マッキンゼーにて14年間、経営戦略立案、実行支援、新組織設計・導入などを多数リード。さらに、シリコンバレーのVCを経て、2002年に共同創業したブレークスルーパートナーズにて、日本発の世界的ベンチャーを育成すべく、共同創業、経営支援に取り組む。「ベンチャーの活性化が、日本を変える最短かつ最も効果的な方法のひとつ」そう語る赤羽氏。その視線の先は日本がブレークスルー(=現状突破)する未来を見据えている。

日本発の世界的ベンチャーを生み出したい

先日のブレークスルーキャンプ*は大成功でしたね。

(*ブレークスルーキャンプ=2011年夏に行われた学生エンジニアを中心とした多数のチームによる、2ヶ月間のサービス/アプリ開発キャンプ: <http://www.btcamp.com/>)

そうですね。意識が高く、向上心のある学生が2ヶ月間非常にかんばってくれました。ウィークリーマンションに2ヶ月間泊まりこみで開発を行うのは非常にストレスがあったと思うのですが、大きな問題もなく、全チームがデモまでやり遂げたのはすごいことだと思います。みんな頑張りました。

今回のブレークスルーキャンプを通じて、ベンチャーという意味においては、日本の未来は明るいと感じましたね。

そもそもこのブレークスルーキャンプを始めた経緯はなんだったのですか？

私は、学生のビジネスプランコンテストに深く関わってきました。だからこそ、アイデアだけで終わってしまうビジネスプランコンテストでは、ラチがあかないと心の奥でずっと感じていました。頑張っても議論してプレゼンしても、「そのアプリ・サービスを実際に作ろう!」となると手を挙げる人がほとんどいないんです。世界では、リスタートアップの時代だというのに。そこで2ヶ月間に実際にアプリ・サービスを開発する、ブレークスルーキャンプを企画し、多くの方のご支援をいただいて、開催しました。

その他

一覧



学生×起業家 インタビュー
bb_intern

bb_intern たった2日で11月度のアクセスランキング2位になった記事です。ぜひ！ RT

@ishidaian: 【再掲インタビュー記事】「世界を楽しもう！」株式会社trippiece石田言行氏インタビュー bb-

relife.jp/interview/vol0...
18 hours ago · reply · retweet · favorite

bb_intern 【3日連続更新】本日小室淑恵様の記事をアップしました！ 材料は、おまんこ、黒糖、...



Join the conversation

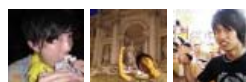
Facebookもチェック



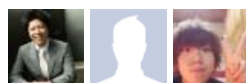
学生×起業
『ReLife』

いいね!

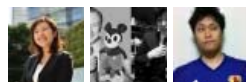
482人が 学生×起業『ReLife』について「いいね!」と言っています。



岡 優樹 平野 将大 竹村 卓巳



田代 大介 Nakajima 嶋津 智章



平木 美紀 野村 岳史 池田 賢一

Facebookソーシャルログイン

優勝したfacematchチームは、その後も快進撃ですね。

はい、facematchチームは、第3回SF Japan Night (<http://www.sfjapannight.com/>)に向けた日本での予選を見事突破し、11月3日にシリコンバレーで開催された決勝では、何となくいる社会人チームを押さえて優勝しました。米国人の受けものすごく良かったです。米国のVCからも、早速資金調達に向けたお話をいただいています。

確かに、最近日本のスタートアップがシリコンバレーに向かっている印象は強いですね。

プロ野球の野茂選手が大リーグに挑戦したときと近い現象が起きていていると感じます。野茂が大リーグで活躍してから、大リーグに挑戦する日本人が増えました。しかし、その前後で日本人の野球のレベルが急激に上がったわけではありません。「大リーグに行っても、とても通用しないだろう。」という心情的な障壁があっただけだと思います。

今年、Wondershakeの鈴木さん (<http://bb-relife.jp/interview/vol0295.html>) やmiepleの福本さんが大胆にシリコンバレーに飛び出して行きました。これからその勢いがかなり加速するでしょう。Facematchチームも数ヶ月以内にチームごとシリコンバレーに移住する決意を固めています。もちろん、これまでもシリコンバレーで起業している日本人は多くいましたが、年が離れていたり、ソーシャルメディアが発達する前だったので、コンタクトが容易には取れませんでした。もちろん、不可能ではありませんでしたが、FacebookやTwitterにより、気軽にコミュニケーションがとれるようになり、敷居が一気に下がりました。

赤羽氏は、なぜそこまで彼らを支援するんですか？

もともとブレイクスルーパートナーズを創業した想いが、そこにあるからです。マッキンゼーに14年間勤め、大企業の経営改革を中心に、数百のプロジェクトに取り組みました。特に、マッキンゼーソウルオフィスを立ち上げた10年間は、毎年50週、500週連続で毎週月曜日朝にソウルに行き、金曜日に帰国していましたが、そんなことをするのは世界でも私くらいでしょう。

そんな中で1997年暮れにアジア金融危機が起こったのですが、その後無数のベンチャーを生み出した韓国人の起業家精神の強さと、のんびりとした大企業指向の強い日本人の差を痛感しました。サムスンやLGといった大企業も劇的に変わっていきました。

日本からトヨタ、ホンダ、パナソニック、シャープ、カシオといった新進気鋭のベンチャーが生まれたのはもう50年以上も昔のことです。最近、DeNA、グリー等が米国進出をし、また楽天が世界展開をもうらんでいます。後に続く企業が数えるほどしかありません。

だからこそ、私は日本発の世界的ベンチャーを生み出したいと思い、ブレイクスルーパートナーズを創業し、これまで活動を続けています。



トップページ リライフについて インタビュー ランキング リンク ブログ お問い合わせ サイトマップ
個人情報保護方針



- About Us >>>
- Interview >>>
- Ranking >>>
- Links >>>
- Blog >>>
- Contact Us >>>

新着記事 new

- 株式会社ワーク・ライフ・ランス
小室 淑恵
- ブレークスルーパートナーズ株式会社
赤羽雄二
- 株式会社trippiece
石田 言行
- 株式会社ループ・コミュニケーションズ
斉藤 徹
- 株式会社エウレカ
赤坂 優

ピックアップ記事 pick up

- クリエイティブアートディレクター
佐藤可士和
- トレンダーズ株式会社
経沢 香保子
- 参議院議員
松田 公太
- アスリート ソサエティ
為末 大
- ワタミ株式会社
渡邊 美樹

▶ 業界別検索

- IT・Webサービス
- 人材・就職支援
- 金融
- マスコミ・広告
- サービス・外食
- 不動産・建築
- コンサルティング
- 教育・カウンセリング
- 士業
- NPO・NGO

TOP > インタビュー > ブレークスルーパートナーズ株式会社 赤羽雄二

「高いところさしを持って前に進む」



31 | 1 | **B!** 6 |

いいね! 40人が「いいね!」と言っています。Facebookにアカウント登録して、友達の「いいね!」を見てみましょう。

必要なのは「熱意」、「向上心」、「柔軟性」

それが日本を変える起爆剤になると？

日本を変える方法はたくさんあるはずですが、日本発の世界的ベンチャーを一つでも多く生み出すことが、現実的には最も効果的な方法だと思っています。「あいつができるなら、おれにもできる」ということで、自分でもチャレンジできるんだ、やれるんだ、やらないわけにはいかないんだ、という気持ちになり、挑戦する人が増え、その結果、一つまた一つと世界で通用するベンチャーが増えていけば、あるところから日本は一気に変わっていくと思います。

政治や教育面の改革は、本当に変えにくい。いいとわかっていても中々決めることができませんし、重点的に資金を投入することができません。政治も行政も機能不全がひどく、改善の目途が立っていません。

ブレークスルーパートナーズは、創業して10年ですが、その間で日本の起業環境は変わったという実感はありますか？

昨年まではほとんどありませんでした。国や社会を動かすというのは、それくらい困難なことです。しかし、今年になって大きく変化し始めました。それは、Facebook、Twitterの普及による情報伝達の早さ、仲間作りの容易さ、クラウドの普及、iPhone・Android携帯の爆発的成長、プログラム開発環境の大幅改善、少額投資のインキュベータの登場などですね。それらの好影響もあり、起業や、シリコンバレーにもどんどん挑戦していく動きが活発化しています。

そのシリコンバレーとはどういったところなのでしょう？あまり、イメージがわからないのですが...

シリコンバレーは、アントレプレナーシップが非常に強いところですよ。世界最強といってもいいでしょう。

世界中から志のある人が集まり、おもしろいことがあれば、すぐ会社を作ってサービス・製品を開発し、勝負するというカルチャーです。週末にはよくパーティーがありますが、そこには起業して大きな利益を得た人がごろごろいるといった、日本では考えられない環境があります。スタンフォード大の学生らは、彼らと触れることが多く、刺激を

その他

一覧



学生×起業家 インタビュー

bb_intern

bb_intern【学生記事】慶応義塾大学、江口亮介(eguri)さんの記事です。高校生の頃から読者モデルとして活躍し、2年前の2008年に1年生では史上初のミスター慶応に輝くなど、学生間の抜群の認知度を誇る彼。江口さんの記事はコテラ!!

⇒<http://t.co/MHiaLuji>

4 hours ago · reply · retweet · favorite



Join the conversation

Facebookもチェック

facebook



学生×起業 『ReLife』

いいね!

482人が 学生×起業 『ReLife』について「いいね!」と言っています。



Facebookソーシャルプラグイン

受けて、新しいサービスをどんどん創りだしています。

日本にシリコンバレーを作ることはいらないのでしょうか。

そうですね。非常にむずかしいです。スタンフォードを中心としてシリコンバレーが生まれたように、日本にもシリコンバレーのような集積地を作ること、本来は不可能ではありません。しかし、そのためには、地域の有力者が長期間コミットして資金を提供し、大学の学長が長期にわたって在任して本気で取り組めば、可能です。ただ、最初の立ち上げだけでも最低7～8年かかります。

日本には、その前に改善しなくてはいけない点がたくさんあります。大企業とベンチャーの関係が、顕著な例だと思えます。

大企業とベンチャーの関係についても、詳しくお聞かせください。

大企業がベンチャーの技術や製品を評価し、購入することが中々おきません。アメリカの大企業は、良いモノであれば必ずしも実績がなくても、ベンチャーから購入します。日本人特有の事なかれ主義が根本原因にあります。社会的・産業的な意味での問題解決力が低く、機能不全に陥っている国です。問題があるとわかっているのに、解決しようとしません。解決方法がわかっても、なんだかんだ理由をつけて実行しない。これでは、日本はなかなか良くなっていきません。先進国の中で、一番文化的に難しい面を抱えていると思えます。

では、その日本を変えうる優秀なベンチャーを見極めるポイントはあるのでしょうか？

ベンチャーとしてももちろん多くの方が成功されていますが、私自身としては、強い志を持ち、実行力のある方とベンチャーを共同創業するアプローチを取っています。

特に、ポテンシャルを非常に重視しています。すなわち、「熱意」、「向上心」、「柔軟性」の3点を重視し、年齢、国籍、性別、バックグラウンドにあまりとらわれず、支援しています。なぜなら、熱意があれば、岩を砕くことができる。向上心があれば、成長し続ける。柔軟性があれば、環境やビジネスモデルの変化に対して苦痛なく変更できる。そういう人であれば、学生であっても一緒にやっています。



トップページ リライフについて インタビュー ランキング リンク ブログ お問い合わせ サイトマップ
個人情報保護方針



Copyright © Business Bank All rights reserved.

- About Us >>>
- Interview >>>
- Ranking >>>
- Links >>>
- Blog >>>
- Contact Us >>>

新着記事 new

- 株式会社ワーク・ライフバランス
小室 淑恵
- ブレークスルーパートナーズ株式会社
赤羽雄二
- 株式会社trippiece
石田 言行
- 株式会社ループス・コミュニケーションズ
斉藤 徹
- 株式会社エウレカ
赤坂 優

ピックアップ記事 pick up

- クリエイティブアートディレクター
佐藤可士和
- トレンダーズ株式会社
経沢 香保子
- 参議院議員
松田 公太
- アスリート ソサエティ
為末 大
- ワタミ株式会社
渡邊 美樹

▶ 業界別検索

- IT・Webサービス
- 人材・就職支援
- 金融
- マスコミ・広告
- サービス・外食
- 不動産・建築
- コンサルティング
- 教育・カウンセリング
- 士業
- NPO・NGO

TOP > インタビュー > ブレークスルーパートナーズ株式会社 赤羽雄二

「高いところさしを持って前に進む」



31 | 1 | B! 6 |

いいね! 40人が「いいね!」と言っています。Facebookにアカウント登録して、友達の「いいね!」を見てみましょう。

成長しないで生きていけるほど、日本は平和ではありません。

■ そのお話からも感じますが、赤羽氏からは終始並々ならぬスピードと決断力を感じます。

意思決定には時間をかけず、また全ての作業を早くやることを意識しています。悩まない、迷わない。できるだけ瞬時に考える。課題把握も0秒、答えを出すのも0秒。時間をかけて考えることを、そもそも良いと思っていません。ミーティングも短いですし、どんどん決めていくので、何倍も生産性があります。

■ そのように即決して後悔することはないのでしょうか？

特にありません。即決するといっても、全て仮説ベースです。検証して、実行して、また修正するといった、その一回一回のサイクルを短くしているだけです。サイクルを飛ばしたり、暴走したりすることはありません。「考えは休みに似たり」という言葉通り、考えてばかりでは実質的にはなにも解決しません。瞬発力を上げ、サイクルを早く回すほうが、圧倒的に効果的ですし、時間を取りません。

ニュートンもアルキメデスも、重要な発見・発明をしたのは一瞬ではなかったでしょうか。常日頃、色々思考を巡らせていたはずですが、閃くのは一瞬です。発明なり、発想なりは、逡巡すればいいわけではなく、瞬時の閃きが大切だと考えています。

■ それを身につけるための訓練などはありますか？

お勧めは、メモ書きです。メモ書きといっても特別なやり方をお勧めしています。A4の紙を横置きにし、疑問・気づき・発見・意思等を1枚1分以内に書きます。それを1日10枚ずつ書いていきます。これをやることで、驚くほど思考が整理され、悩みが減り、頭脳明晰となり、新しいアイデアが生まれるようになります。ぜひ試してください。

学生×起業家 インタビュー
 ReLife
 bb_intern

bb_intern【facebookファンページ】起業家インタビューのReLifeの公式ファンページです。注目記事が満載！



Join the conversation

Facebookもチェック



学生×起業
 『ReLife』
 いいね!

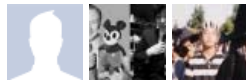
482人が 学生×起業
 『ReLife』について「いいね!」と言っています。



有馬 大暉 清水 大樹 岡 優樹



田代 大介 原 岳 三井 基寛



Nakajima 野村 岳史 平 皓瑛

Facebookソーシャルログイン

具体的な方法、ありがとうございます。同様に赤羽氏は、大きな組織を動かすことにも長けているように感じます。

マッキンゼーでも20個くらいのプロジェクトを一人で回すことをしていたので、実践の中で、どうやったら人が動いてくれるのかということが身についたというのがあります。

具体的には、構成メンバーのモチベーションとスキルアップを常に考えています。そのために、ビジョンを明確に打ち出し、役割を具体的にします。お互いのコミュニケーションを徹底的にやっていただきます。そのために

- ・ミーティング、メールリストなど、あらゆる手段を用いる
 - ・みんなの手柄をどんどん共有する・失敗事例も共有する
 - ・イベント、発表、ランキングを行い、競争心を刺激する
- などを行っていきます。

個別で見ると、当たり前のことばかりなのですが、大切なのは、それを徹底的にやり抜くことです。さらに、きめ細やかに、かつ大胆に行く。簡単なようでして、十分出来る人は、ほとんどいません。だいたい中途半端に終わってしまいます。なので、徹底的に、かつ首尾一貫にやれば、誰よりも人を動かせるようになると思います。

では改めて、起業の魅力とはなんでしょうか？

私は、いわゆる起業家ではありません。起業する人を支援する立場です。その点で、起業家を支援する魅力という視点で語るならば、ポテンシャルのあるやる気の高い若い人たちと、ディスカッションをして、わくわくする事業をつくって、それで全力疾走するのが、エキサイティングだと感じています。

また何度も言っていますが、「日本発の世界的ベンチャーをひとつでも多く生み出すことが、日本を変える最短かつ最も効果的な方法のひとつ」だと思っています。だから、より多くの人にベンチャーをやってほしいし、支援してほしいです。大企業というのは、保守的であって、なにかを変える動きはしにくいですからね。

今後、学生はベンチャーに就職したほうが良いのでしょうか？

大企業への就職自体が悪いわけではありません。力がない人、やる気がない人がベンチャーを始めても、うまくいきません。

ただ全員に共通して伝えたいのは、毎日「急激に」成長してほしいです。明日はもっと成長しているか、成長カーブにのっているか、そこをぜひ追求していただければと思います。昨日の自分より成長できているかをなにより大切に、日々確認していただければ確実に成長します。身の保全や保身に走ることは決して本当の意味の保全にはつながりません。

成長しないで生きていけるほど、日本は平和ではありません。

貴重なメッセージ、ありがとうございます！

迷ったときは、ぜひチャレンジしてください。

また、英語は、これまで以上に必須なものなので、最低限身につけておきましょう。さらに、FacebookやTwitterを始めとするソーシャルメディアを駆使する能力も必須です。

【インタビューを終えて】

赤羽さんにインタビューしている内に、決断力と人を動かす力は抜群にあるなあと感じました。その秘訣が、メモ書きにあると教えていただいたので、実際に試しています。これも、徹底して続けていきたいと思っています！

また日本の将来に対する、本当に深く考えておられました。日本の起業環境は、今が変革期だとおっしゃっていたのですが、その変革の波に自分も乗りたいと思いました！

【ご感想はこちらから】

2011年11月30日 担当：井坂 陽